
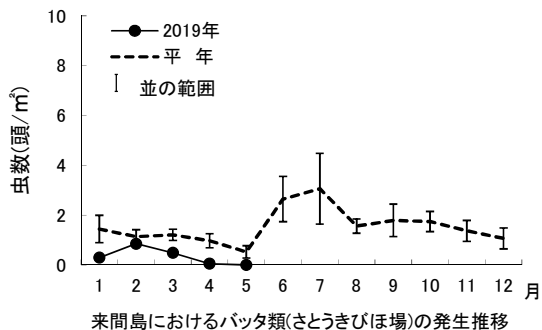
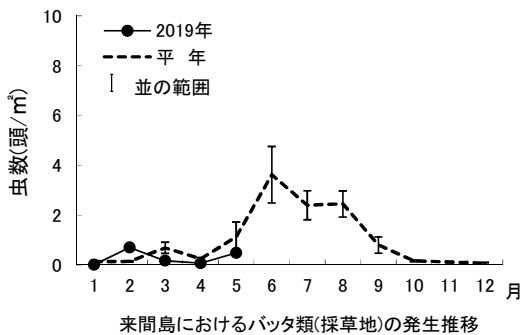


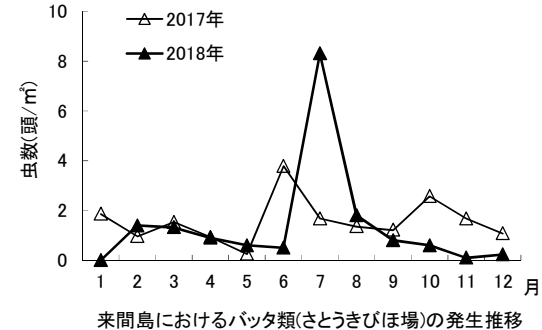
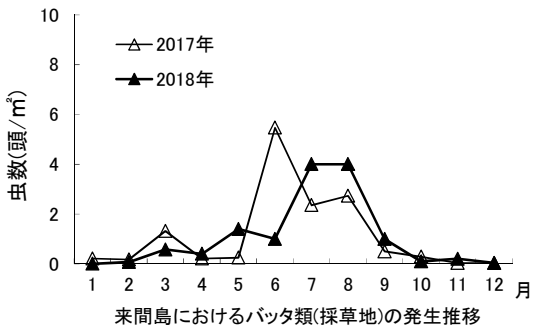
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類		
予報	6 月の発生量 (平年比)	やや少	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	やや少	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



・発生種：タイワンツチイナゴ

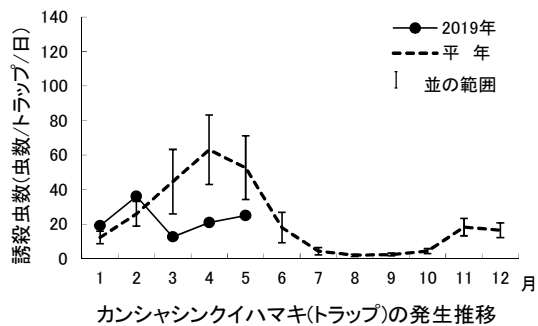
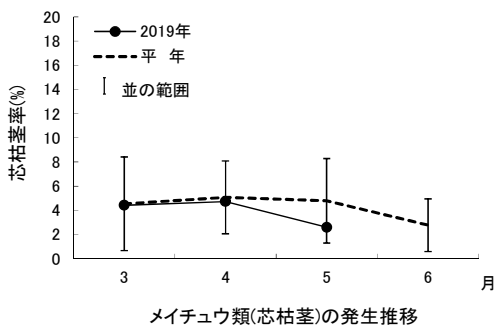
防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・幼虫期の防除が効果的なので、6月にほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

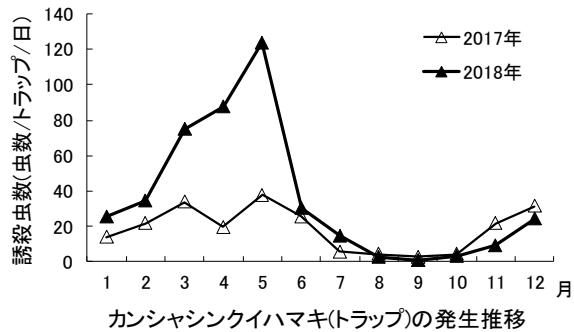
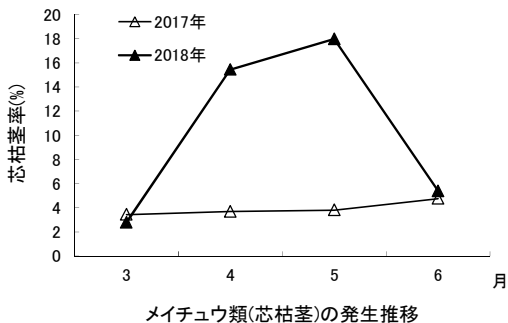
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	② メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並~やや少	
	5 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓) トラップ誘殺虫数が平年より少ない	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



・茎内で発見したメイチュウ類の90.5%がカンシャシクイハマキであった。

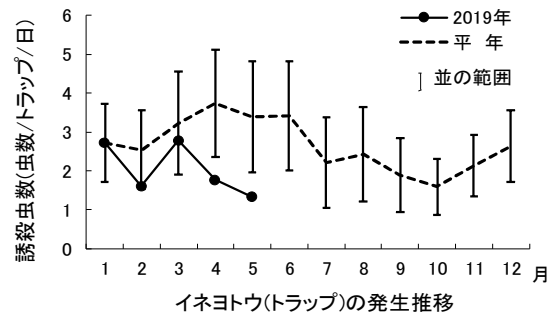
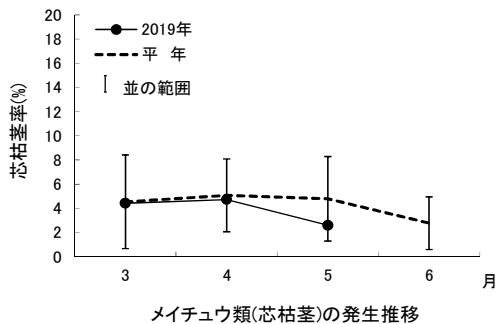
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の上に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

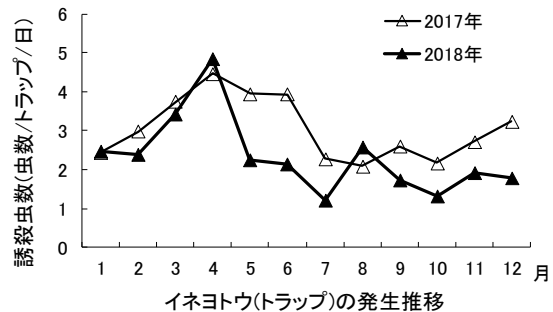
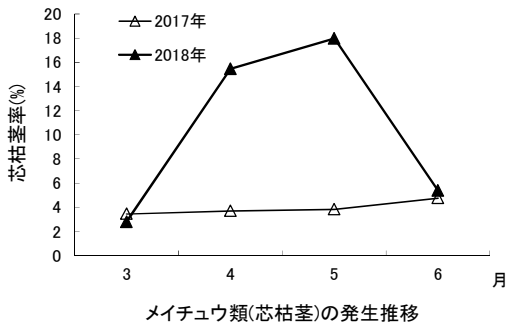
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	③ メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並~やや少	
	5 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘) トラップ誘殺虫数が平年より少ない	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



・茎内で発見したメイチュウ類の9.5%がイネヨトウであった。

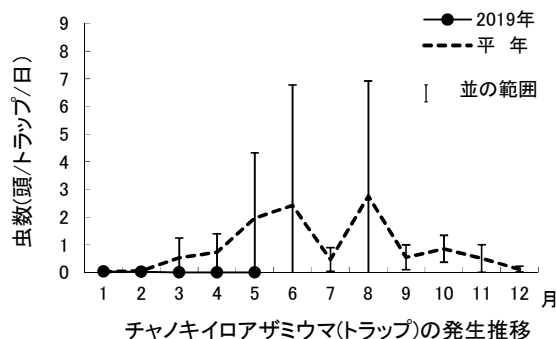
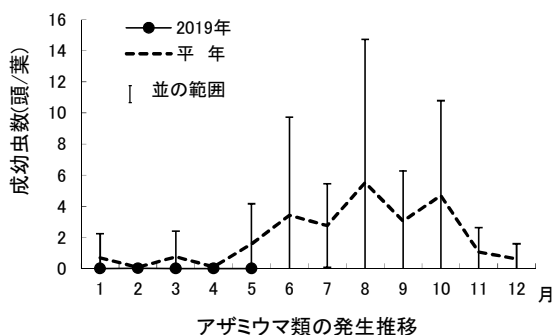
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

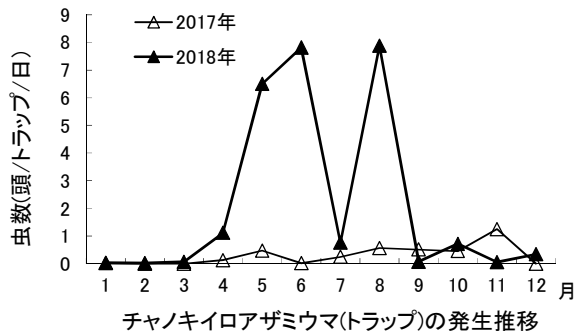
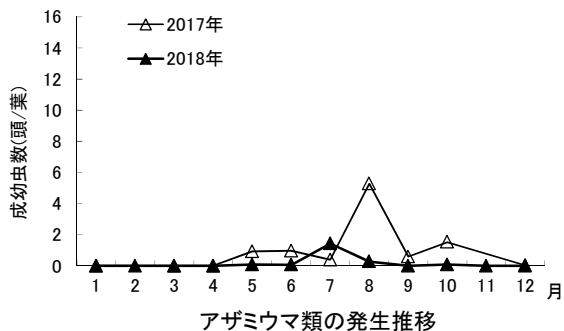
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) 開花期～幼果期にあたるため	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




・関係機関から一部ほ場で発生情報あり。

防除のポイント

- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 多発した施設では、収穫後に薬剤による防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 不要な新梢は、施設外に除去する。

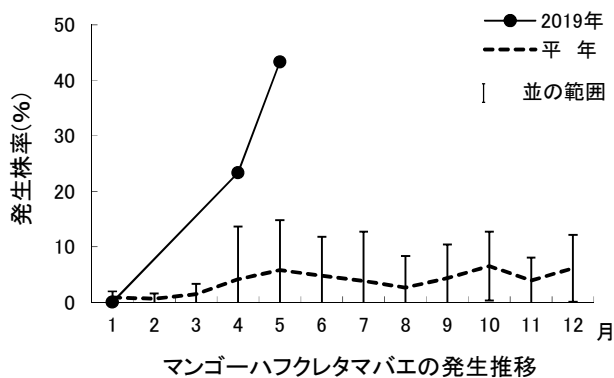


ナガエコミカンソウ

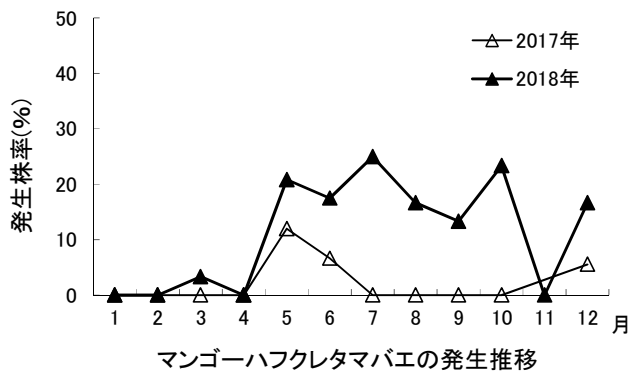
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
予報	6 月の発生量（平年比）	多	
	5 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	5 月の発生量（平年比）	多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



- ・被害新梢率：22.0%
- ・発生施設率：80.0%

防除のポイント

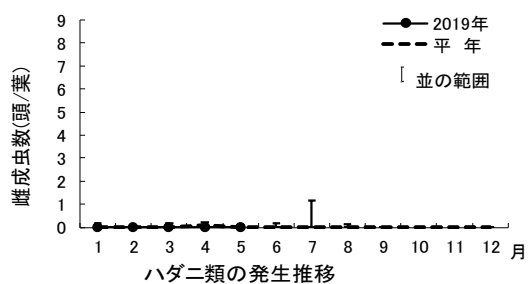
- ・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・翌年の着果枝となる新梢が加害されると減収につながるため、多発施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。せん定枝は施設外に処分する。

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	③ ハダニ類		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

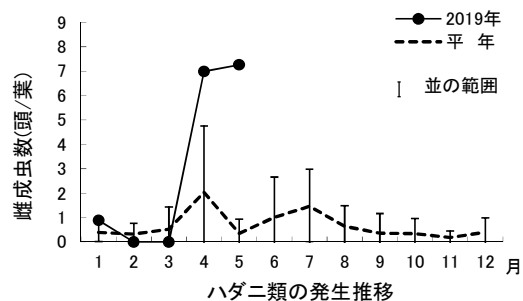
調査結果

今期と平年の推移

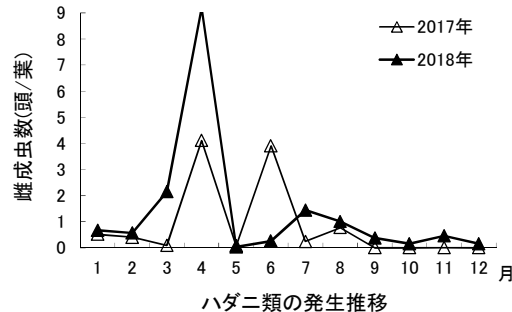
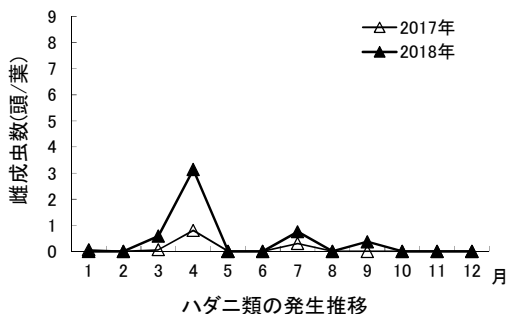
中央値



平均値




過去2年間の推移



- ・一部の定点調査ほ場で多発生していた。
- ・発生種：シュレイツメハダニ

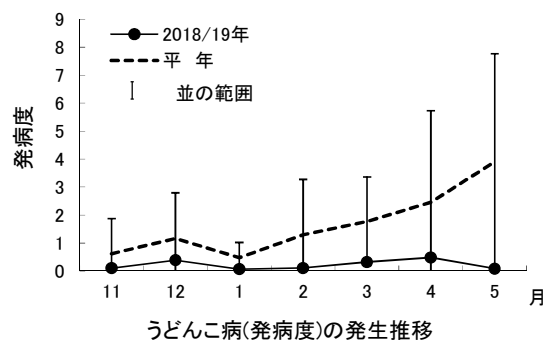
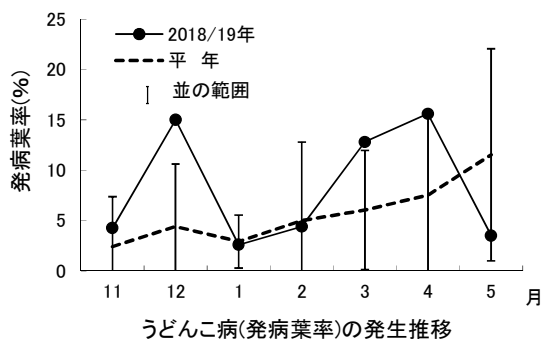
防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

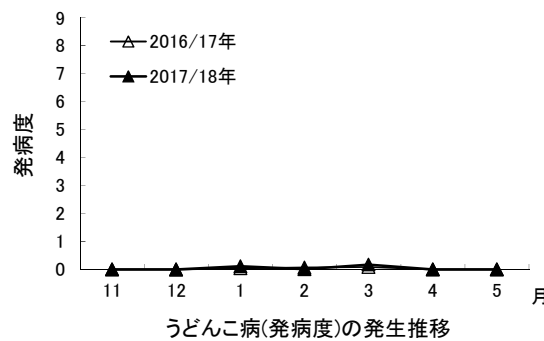
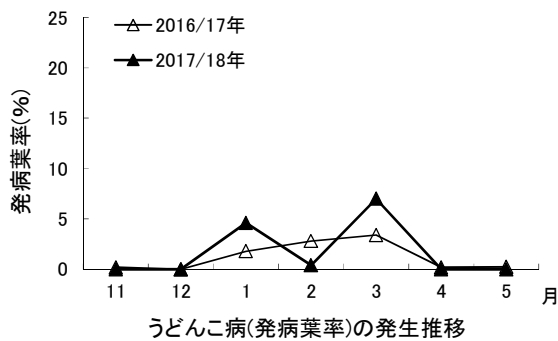
作物	ゴーヤー(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
予報	6 月の発生量 (平年比)	-	
	5 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



防除のポイント

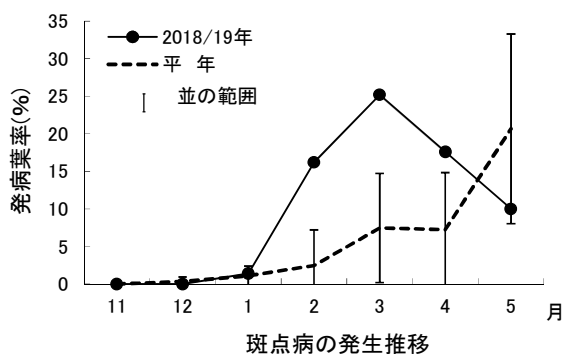
- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。



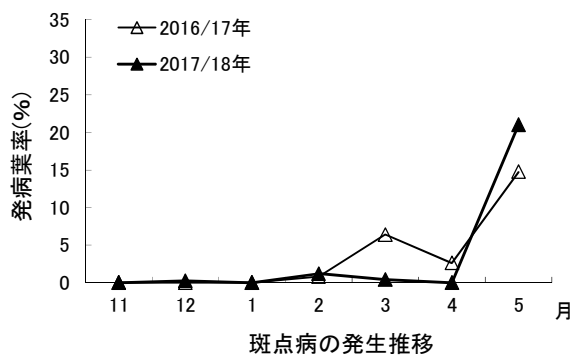
作物	ゴーヤー(施設)	地域	宮古群島	
病害虫名	② 斑点病			
予報	6 月の発生量 (平年比)			-
	5 月からの増減傾向			-
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並		
	その他 (気象要因など)			

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




- ・一部の定点調査ほ場で多発生していた。

防除のポイント

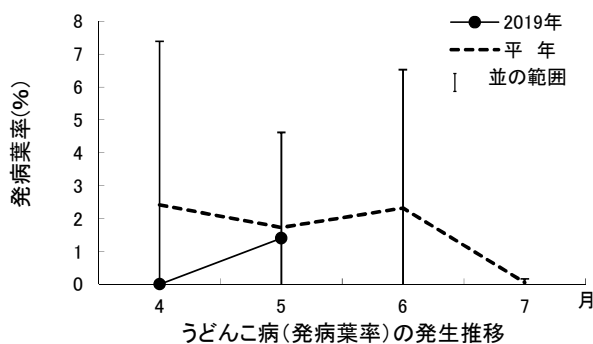
- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。



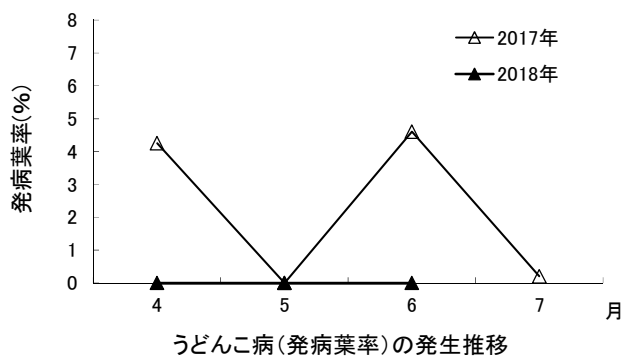
作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並	
	5 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



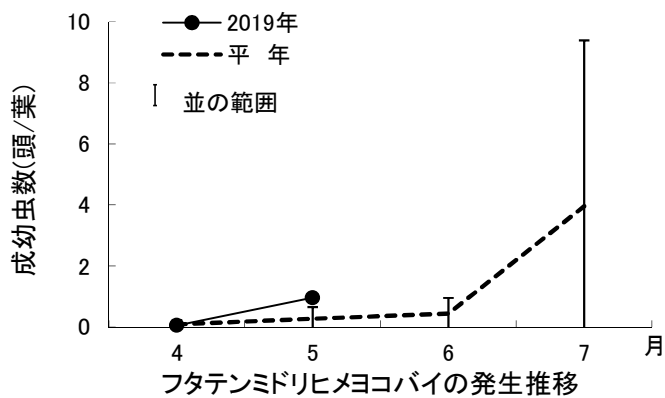
防除のポイント

- ・ 下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・ 窒素過多にならないようにする。
- ・ 草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

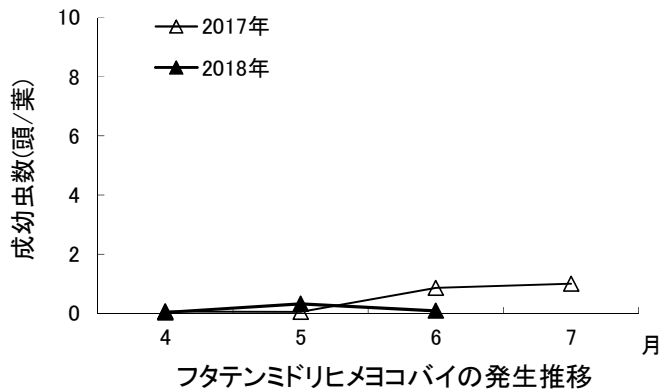
作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並~やや多	
	5 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	今後 1 か月の気温が平年並または高い見込み	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



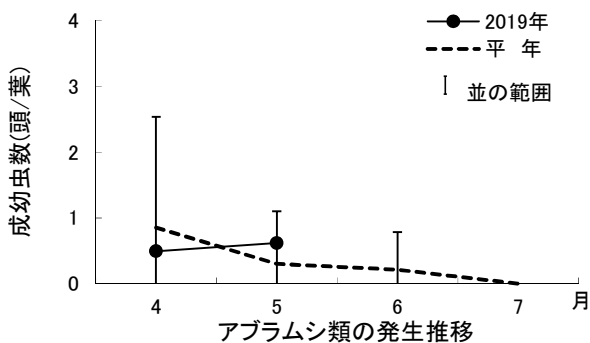
防除のポイント

- ・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

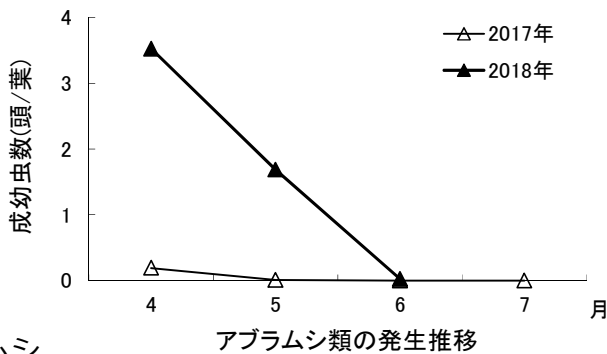
作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	6 月の発生量 (平年比)	並~やや多	
	5 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	今後 1 か月の気温が平年並または高い見込み	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



・発生種：ワタアブラムシ

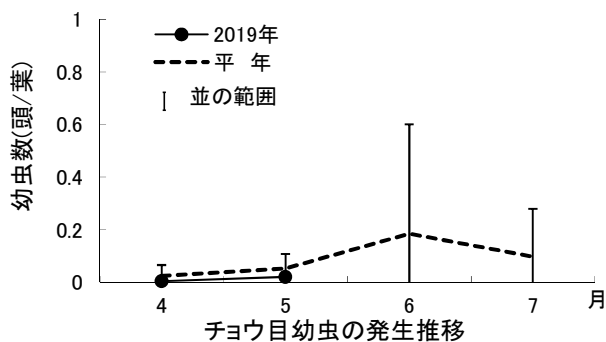
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

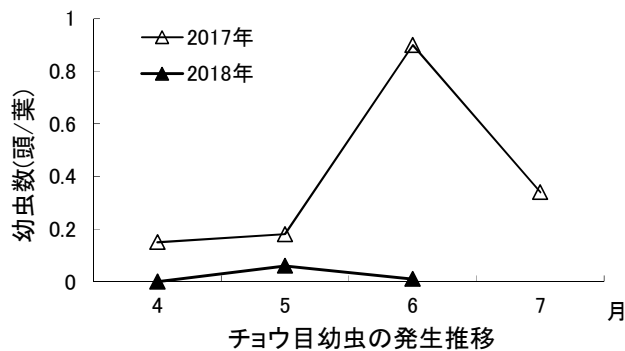
作物	オクラ		地域	宮古群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫(オオタバコガを除く)			
予報	6 月の発生量 (平年比)	並		
	5 月からの増減傾向	→		
予報の根拠	5 月の発生量 (平年比)	並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

今年と平年の推移



過去2年間の推移



・発生種：台湾キドクガ、ハスモンヨトウ

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。